



うちの方向け まるわかりブック

いよいよ小学校でも 本格的な英語がスタート?!



小学校で英語が始まります

学習指導要領の「外国語活動」「外国語」で扱う言語は英語だけに限ったものではありません。しかし、多くの学校で英語を選択しているため、本書では新たに5,6年生で扱うことになる「外国語」を「英語」と表現しています。
ご了承ください。

学習指導要領が改訂され、2020年度から小学校の学習カリキュラムが改められます。今回の改訂で話題になっていることのひとつが、小学校でも英語を教科として学ぶようになることです。

これまで小学校では、5,6年生で「外国語活動」として英語を扱ってきましたが、これは教科として外国語を学ぶのではなく、「外国語に親しむ」ことが目的でした。

学習指導要領の改訂によって、5,6年生は「外国語」という教科として英語を学ぶことになり、今まで英語にふれていなかった3,4年生で「外国語活動」に取り組むこととなります。

Q 今でも小学校で英語をやっていたんじゃない？

A これまでは、教科ではありませんでした。

Q 教科になると何が変わるの？

A 習得する内容が明確になります。

「外国語活動」は「外国語に親しむ」ことが目的で、「聞く」「話す」ことが中心でした。また、教科ではありませんから、多くの自治体では成績がつくこともありませんでした。

教科となる英語では、「聞く」「話す」に加えて段階的に「読む」「書く」ことも始まります。学習指導要領には習得すべき文構造なども示され、中学、高校につながる英語学習が小学校の英語にもしっかりと位置づけられたと考えられます。特に文字指導の「書く」が加わったことは中学校への接続を意識した大きな変化です。また、正式な教科ですので、他教科と同様、成績もつけられます。

単語についても、600〜700語程度を扱う(3,4年生の「外国語活動」で扱うものを含む)という目安が示されました。

教科化されることによって、小学校でも本格的な英語の学習が始まるといえるでしょう。

今でも小学校で英語をやっていたんだから、そのままでもいいんじゃない？

小学校の英語だけを変えようという話じゃないんです。

